

令和3年度 学校自己評価

中津市立如水小学校 R4.2.10

1 学校の教育目標

豊かな心と基礎・基本を身につけ、多様性を尊重し、自ら学び切り拓く子どもの育成

2 育成を目指す資質・能力

聴く力、読む力、つながる力を育み、根拠をもって自分の考えを表現できる子どもの育成

3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評価判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～89%
C	…達成率60～69%
D	…達成率60%未満

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組
生きて働く知識・技能の 育成	①「授業で友達の話が聴ける」A層児童の割合を5%増やす (5月65%→12月61%) ②「進んで本を読んだ」A層児童の割合を5%増やす。 (5月57%→12月52%) ③中津市学力調査(国・算)で、標準偏差値50を上回る ④単元テストの70点未満(C層)の割合を2割以下にする。	学校	①読む力・聴く力の育成 ②如水STを意識した授業の実施	B	①「授業で友達の話が聴ける」A層児童(12月61%) ②「進んで本を読んだ」A層児童(12月52%) ③中津市学力調査で4学年が標準偏差値を上回る。④単元テスト70点未満:「算数」知識理解7%・思考判断技能21%・「国語」知識理解9.5%・思考判断表現7.6% ○読解ドリルで、読むことの意識は上がり、授業中の表現活動(考えを書く・説明する)を多く行った成果が国語に表れた。 ★学び合いの視点、課題をわかりやすく短く指示、思考表現の時間を十分確保。ヘアグループで伝え合う対話のある授業改善。 ★子どもが互いに学び合い教え合う良さを体験できる人間関係作りプログラムの実施。
		家庭	○家庭学習の徹底 ○生活習慣の確立	B	毎日「宿題はどうだった?」と声かけ運動をする。
		地域	学習支援の実施	A	毎週水曜放課後学習教室、土曜日教室、学習支援活動を実施する。 放課後学習教室 R2:6人 → R3:12人 土曜日教室 R2:12人 → R3:10人 如水文化伝習教室 R2:29人 → R3:28人 ○放課後学習教室に参加する児童が増え、自分の学習に取り組み場となっている。(感染症対策の上、26回実施) ○ミニサポーター、書写サポーターなど地域の皆さんに支援をいただいた。 ★放課後子ども教室との連携をさらに発展継続する。
現 力 の 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成	①「授業で自分の考えが言える」と答えるA層児童の割合を5%増やす (5月58%→12月50%) ②「授業で振り返りができている」と答えるA層児童の割合を5%増やす。 (5月A層66%→12月A層60%)	学校	①表現力向上を中心に据えた授業の実践 ②授業の振り返りの充実	B	①授業者が、週2回以上、思考ツールを用いて考えさせたり書かせたりする。 ②授業者が、毎時間、振り返り時間を確保し行う。
		家庭	ありがとう運動の推進	A	家で「1日1回ありがとう」を実施する。
		地域	あいさつの推進	B	地域で連携し、あいさつ運動に取り組む。
学 び に 向 か う 力 、 人 間 性 等 の 涵 養	①生活プロジェクトに進んで取り組んだ」A層児童の割合を5%増やす。 (5月A層51%→12月A層60%) ②自分で課題を見つけ目標をもって取り組むことができた」と答える児童のA層の割合を5%増やす。 (5月A層57%→12月A層56%)	学校	①生活プロジェクトの実施 ②課題をとらえ、目標をもって取り組む力の育成	B	①担任が、各学級の課題を自分たちで取り組ませた進捗状況を、全校に発表させる。 ②担任が、学習生活行事で、キャリアノートを活用し自ら課題をとらえ、目標の振り返りや声かけをしながら取り組ませる。
		家庭	家族の一員として協働する力の育成	B	子どもと一人一手伝いを決め、取り組ませる。
		地域	地域のよさや文化についてよさを伝える	A	各機関と連携し、ゲストティーチャー活動を推進する。
働 き 方 改 革 の 推 進	○平均在校時間の縮減 平均超過勤務 (昨年12月34.5時間→12月33.6時間) ○定時退庁の実施	学校	在校の超過勤務45時間以内の実現	B	平均超過勤務(4月46.8時間→7月32.2時間→12月33.6時間→1月26.9時間) ○定時退庁日に完全退庁に向けて授業で話し声をかけるとともに、学期末整理期間を設定。 ○スクールサポートスタッフが、担任が行っていた印刷、教材準備、校内消毒などを担っている。 ▲授業準備の時間確保による授業改善の維持、持ち帰り業務の常態化。 ★校時表の見直し、デジタル教科書等ICTを使った教材準備、会議資料のデータ化などで時間短縮に取り組む。 ★教育補助員の増員を申請するなど人的資源の確保の推進。
		家庭	教員の超過勤務実態の理解	B	午後6時以降の電話はしない。
		地域	定期的な見回り実施	A	校区の定期的な見回りを行う。 保護者による地区別安全パトロールの取り組みを継続して実施する。